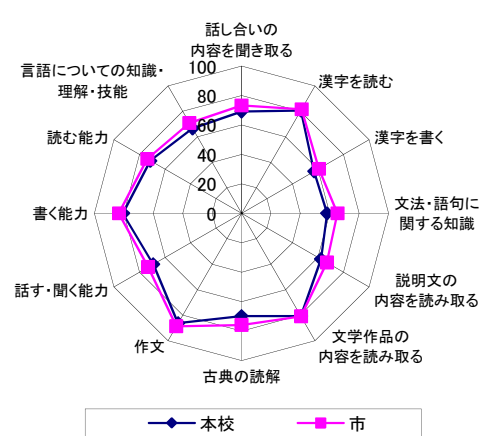


宇都宮市立鬼怒中学校 第2学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内容を聞き取る	69.2	73.3
	漢字を読む	80.7	81.5
	漢字を書く	57.0	60.6
	文法・語句に関する知識	58.1	65.2
	説明文の内容を読み取る	62.4	66.9
	文学作品の内容を読み取る	80.7	80.9
	古典の読解	69.9	76.0
	作文	86.3	88.6
	話す・聞く能力	69.2	73.3
観点別	書く能力	80.6	83.4
	読む能力	71.5	73.9
	言語についての知識・理解・技能	66.6	70.9



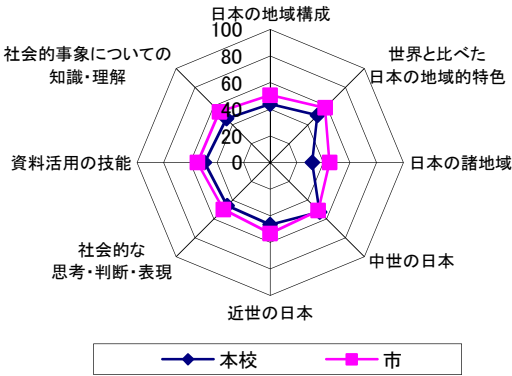
★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内容を聞き取る	・市の正答率より4. 1ポイント低い値である。特に、「相手の意見に対して自分の考えを持ち、質問する」という項目は、市よりも7. 9ポイント低くなっている。	・相手の話を聞き取り、理解することはできるが、そこから自分の考えをもち、話し合いへと発展させることが苦手である。日頃の話し合い活動から、受け身の姿勢にならないよう、自分の考えをまとめられるようにする。また、自分の考えの土台ともなる知識を増やすためにも、下調べの学習を十分にしてから話し合いに臨む習慣をつけていく。
漢字	・漢字の読みは0. 8ポイント、書きは3. 6ポイント市の正答率よりも低い値である。	・読書量を増やすことで、文章の中で漢字を読む機会を増やしていく。また、これまでに学習した漢字の復習をしていく。
文法・語句に関する知識	・市の正答率より7. 1ポイント低い値である。特に、「用言の活用」が15. 9ポイントと大きく下回っている。	・文法事項は、授業で学習した直後はよく理解しているので、練習問題を継続的に実施し、定着を図る。
説明文の内容を読み取る	・市の正答率よりも4. 5ポイント低い値である。「文章の内容をとらえて、具体的な事例にあてはめる」という項目が4. 7ポイント低く、その他の項目は、市の正答率と同程度である。	・文章の読み取りは平均的にできているが、読み取った内容から自分の考えを深める力が不足している。日頃の授業でも、発展的な学習を多く取り入れ、学習内容と自分自身の生活を関連させて考える機会を多くもたせる。
文学作品の内容を読み取る	・市の正答率よりも0. 2ポイント低い値である。「登場人物の心情をとらえる」は市より1. 7ポイント高く、その他の項目は、市の正答率と同程度である。	・読書の時間を活用し、読書量が増加したことの効果が表れている。今後はさらに、読む対象が広がるよう図書紹介などの活動を行っていく。
古典の読解	・市の正答率よりも6. 1ポイント低い値である。特に、「歴史的かなづかいを現代かなづかいに直す」という項目が、13. 8ポイント下回っている。	・古文の内容をおおまかにとらえることはできている。一方で、「現代かなづかいに直さない」と「現代語に直さない」などの質問の意味をとらえ間違えることが多い。古文の基本事項の確認と、問題演習を繰り返し行っていく。
作文	・市の正答率よりも2. 3ポイント低い値である。どの項目も市と同程度か、やや下回る程度である。	・ある程度、文字数の多い文章が書ける生徒は、構成を考え、自分の立場を明らかにし、わかりやすく書く力がついている。一方で、作文が苦手な生徒は、最初からあきらめてしまい、一文字も書けないことが多い。苦手意識をもたせないために、親しみやすいテーマで短い文を書かせる指導を、継続して行っていく。

宇都宮市立鬼怒中学校 第2学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	日本の地域構成	43.8	50.7
	世界と比べた日本の地域的特色	50.2	58.2
	日本の諸地域	31.6	44.6
	中世の日本	52.5	51.0
	近世の日本	46.7	53.3
観点別	社会的な思考・判断・表現	45.8	49.8
	資料活用 of 技能	49.3	54.7
	社会的事象についての知識・理解	46.5	53.9



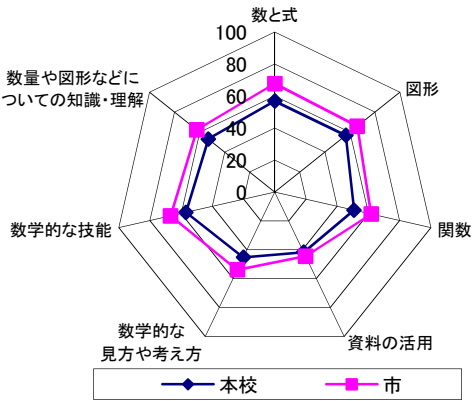
★指導の工夫と改善

領域		本年度の状況	今後の指導の重点
地理	日本の地域構成	・都道府県の位置と名称、都道府県所在地について理解できていない。 ・全体的に市の正答率を下回っているが全国とほぼ同じ正答率である。	・グラフ、図版など資料を読み取る力についてはついてきているが、それが理解に結びつかず、知識・理解が不十分だったり、内容によってむらがある。 ・資料から読み取ったことをもとに、仮説を立てたり、結論づけたりするプロセスを理解させるように指導する。また全般に復習が足りず定着していないことも考えられるので補充学習で補っていく。 ・特に基礎的・基本的事項を繰り返し学習できるように演習問題の課題を与え、知識の定着を図る。
	世界と比べた日本の地域的特色	・人口ピラミッド、時間距離の変化について、グラフや資料の読み取りは市の正答率よりは低いですが全国を上回っている。 ・過疎地域についてや、貿易の変遷についての理解ができていない。	
	日本の諸地域	・「日本の各地域の家の工夫について考えることができる」は、ほぼ市の正答率と同じだった。 ・日本の各地域の特色ある自然についての理解ができていなかった。	
歴史	中世の日本	・日明貿易についての理解や中世のできごとの流れをおおまかに理解することは全国や市の正答率を上回った。 ・中世の日本の学習は全般におおむねできていた。	・地理に比べて歴史の方が理解できており、市の正答率を上回っている問題が4問、ほぼ同じ問題が2問あった。制度についての理解が不十分だったことから、グラフ・図版・写真資料のほか、文書資料も正しく読み取れるよう指導していきたい。 ・鉄砲の伝来についての理解不足だったことから、事象の時代背景を国内だけでなく外国の歴史と結びつける視点に着目させ、きっかけや原因を考える手立ての一つとして指導していきたい。
	近世の日本	・元禄文化についてよく理解できていた。 ・百姓一揆と打ちこわしの発生件数のグラフの読み取りもよくできていた。 ・武家諸法度や参勤交代についての理解が不十分だった。 ・鉄砲の伝来についての理解が不十分だった。	

宇都宮市立鬼怒中学校 第2学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と式	56.8	67.7
	図形	56.8	65.9
	関数	50.7	61.7
	資料の活用	41.7	44.4
観点別	数学的な見方や考え方	45.2	53.9
	数学的な技能	56.9	66.7
	数量や図形などについての知識・理解	53.0	62.3



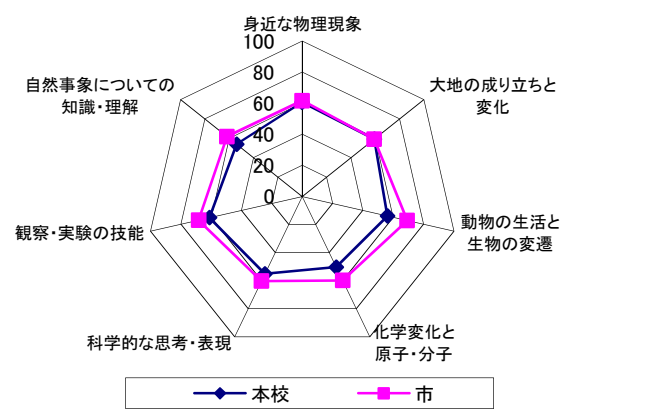
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	・市の正答率を10.9ポイント下回っている。同類項をまとめる計算や文字式の乗法の理解はできている。しかし、式の値の求め方や、連立方程式の解き方(加減法代入法)が定着していない。	・計算の方法を定着させるために、繰り返し練習する。具体的には、モジュール学習や小テストを利用し、計算する機会を多くとり、早く、正確に解けるよう練習させたい。
図形	・市の正答率を9.1ポイント下回っている。角の大きさを求める問題に関しては理解できているが、表面積、体積を求めたりする空間図形になると、理解力が落ち、定着されていない。	・空間図形に関しては、1年生の内容で忘れてしまっているのが正直なところである。表面積や体積を求める問題は特に大切であり、パターンを覚えさせるよう、復習する時間を設けていきたい。
関数	・市の正答率を11ポイント下回っている。1次関数は苦手な生徒が多く、理解度が低い。特に、グラフから式を求めたり、2点の座標から式を求めるところが定着されていない。	・関数では、表やグラフが大切なので、ていねいに扱う。式を求める際に、変数と定数の意味、文字に数を代入する意味を理解させる。同じ種類の問題を繰り返し解き、パターンを身につけさせる。
資料の活用	・市の正答率を2.7ポイント下回っている。相対度数や有効数字などの理解度が低い。	・相対度数に関しては、確率の学習を通して理解を深めていく。また、有効数字や平均値などの代表値についても忘れやすい単元であるので、折を見て復習していきたい。

宇都宮市立鬼怒中学校 第2学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	身近な物理現象	60.6	61.6
	大地の成り立ちと変化	59.2	59.1
	動物の生活と生物の変遷	56.3	69.2
	化学変化と原子・分子	50.3	59.8
観点別	科学的な思考・表現	55.2	60.3
	観察・実験の技能	61.1	68.3
	自然事象についての知識・理解	53.9	61.8



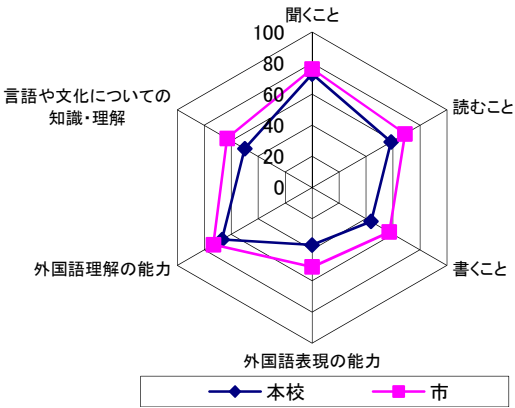
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	・市のレベルより1.0ポイント下回っている。 ・真空中での音の伝わり方や音の聞こえ方(オシロスコープを使った波形の違い)の理解が定着していない。 ・物体の置き方による圧力の変化や2つの物体を重ねておいたときに加わる圧力を式で求めることが定着していない。	・音の大小・高低をオシロスコープなどを通して視覚的に示し、波形の変化で音の特徴を理解させるように指導する。 ・力の大きさをN(ニュートン)単位で表せることや物体を置いた時にかかる圧力を計算で求めることができるよう、問題の演習を繰り返し指導する。
大地の成り立ちと変化	・市のレベルより0.1ポイント上回っている。 ・地震を伝える2つの波や、地震を伝える最初の波を「初期微動」ということは理解している。また、石灰岩の特徴をよく理解している。 ・火山の形の違いは、マグマの粘り気の違いによることの理解が定着していない。	・マグマの特徴による火山のでき方と、火山の形を関連づけて理解させる。また、その時にできる火成岩の色や結晶の大きさなどを観察を通して視覚的に確認を行うことや、視聴覚教材を利用し、知識の定着を図る。
動物の生活と生物の変遷	・市のレベルより12.9ポイント下回っている。 ・細胞のつくりや、組織が集まったものを「器官」といい、器官が集まって多細胞生物の個体ができていることが理解できてない。 ・だ液のはたらきを調べる実験で、対照実験を行う目的は理解できているものの、ベネジクト液が反応したときの様子の理解が定着していない。	・写真や映像などの視聴覚教材や図鑑等の図書教材を活用して、身近な細胞のつくりや、実験での試薬の変化を中心に興味関心をもたせて指導する。 ・だ液のはたらきについては、ベネジクト液の反応を忘れてしまっていることが考えられるため、再度演示実験を行う。さらに、演習問題を行うことで知識の定着を図る。
化学変化と原子・分子	・市のレベルより9.5ポイント下回っている。 ・反応の前後で物質全体の質量が変わらないという質量保存の法則については、市のレベルより1.0ポイント上回っている。 ・酸化銀を分解する実験では、分解して残った個体が銀であると判断したり、実験の際に加熱をやる前の操作について理解が定着していない。	・実験操作の方法等、基本的な事項の知識の定着をさせる必要がある。 ・酸化銀の熱分解の実験を通して、物質が加熱後に分解されることを理解させる。 ・反応前と反応後では質量が変化しており、加熱後に残った物質を磨くと光ることから、銀であることを理解させる。 ・実験を通して、観察・実験の基本操作を習得させる。

宇都宮市立鬼怒中学校 第2学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	聞くこと	72.9	76.2
	読むこと	58.5	68.9
	書くこと	43.6	57.2
観点別	外国語表現の能力	36.9	51.0
	外国語理解の能力	66.9	73.4
	言語や文化についての知識・理解	50.1	63.2



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	・市の平均を3.3ポイント下回っている。絵を見て答える問題については平均的か上回っているものもある。しかし、対話の内容を聞き取って応答する問題に関しては平均を大きく下回っている。そのため、市の平均を下回る結果となった。	・対話を聞き取って応答する問題に取り組む時間をとりたい。さらに、問題文にあるキーワードを利用して対話のおおまかな流れがつかめるようにしていきたい。
読むこと	・市の平均を10.4ポイント下回っている。特に、長文の読み取りを苦手としている。その中でも、長文の内容に関する質問に英語で答える問題は苦手であり、無回答の生徒が多かった。	・単語が分からないから読めないという悪循環をなくするため、新出単語の定着を図るとともに、既に学習済みの単語にも適宜触れていきたい。また、わからない単語があっても前後の文脈からわからない単語の意味を推測しながら読み進める練習を取り入れていきたい。さらに、これまで以上に読み取り教材のまとめとして英問英答に取り組む時間を増やしていきたい。
書くこと	・市の平均を13.6ポイントと大きく下回っている。単語の並べかえによる英作文問題を苦手としており、重要な文法項目の定着が低い。しかし、3文以上の英文で自分のことを表現する問題では、テーマにそって英文を書こうという意欲が見られた。	・3文以上の英作文は、授業中や単元末テストで出題するなど繰り返し取り組んできたため、苦手意識が薄く、何かしらを書こうという意欲につながったと思われる。今後とも身近なことを既習の文法事項や単語を使って書く活動を続けていきたい。